

目指すべき方向性及び共通認識事項について

■第4回会議までのまとめ

- | |
|---|
| <p>①当面取り組む内容
→「浜町及び浜町周辺の賑わいづくり」をリード事業に設定し、集中的に協議する</p> <p>②今後の進め方
→2つのワーキング（「<u>浜町の商業・公園海辺ゾーン再構築ワーキング</u>」「<u>浜町周辺のまちづくりワーキング</u>」）を設置し、具体の事業等を協議</p> <p>③スケジュール
→3年程度で「賑わいの見える化」を図ることを目標に、スピード感を持って進める</p> |
|---|

※2つのワーキングの名称を具体的に分かるように変更しています。

■目指すべき方向性及び共通認識事項の確認

これから具体的な協議に入っていくために、まずは委員及びワーキングメンバーの共通認識として位置付けるもの。

<目指すべき方向性>

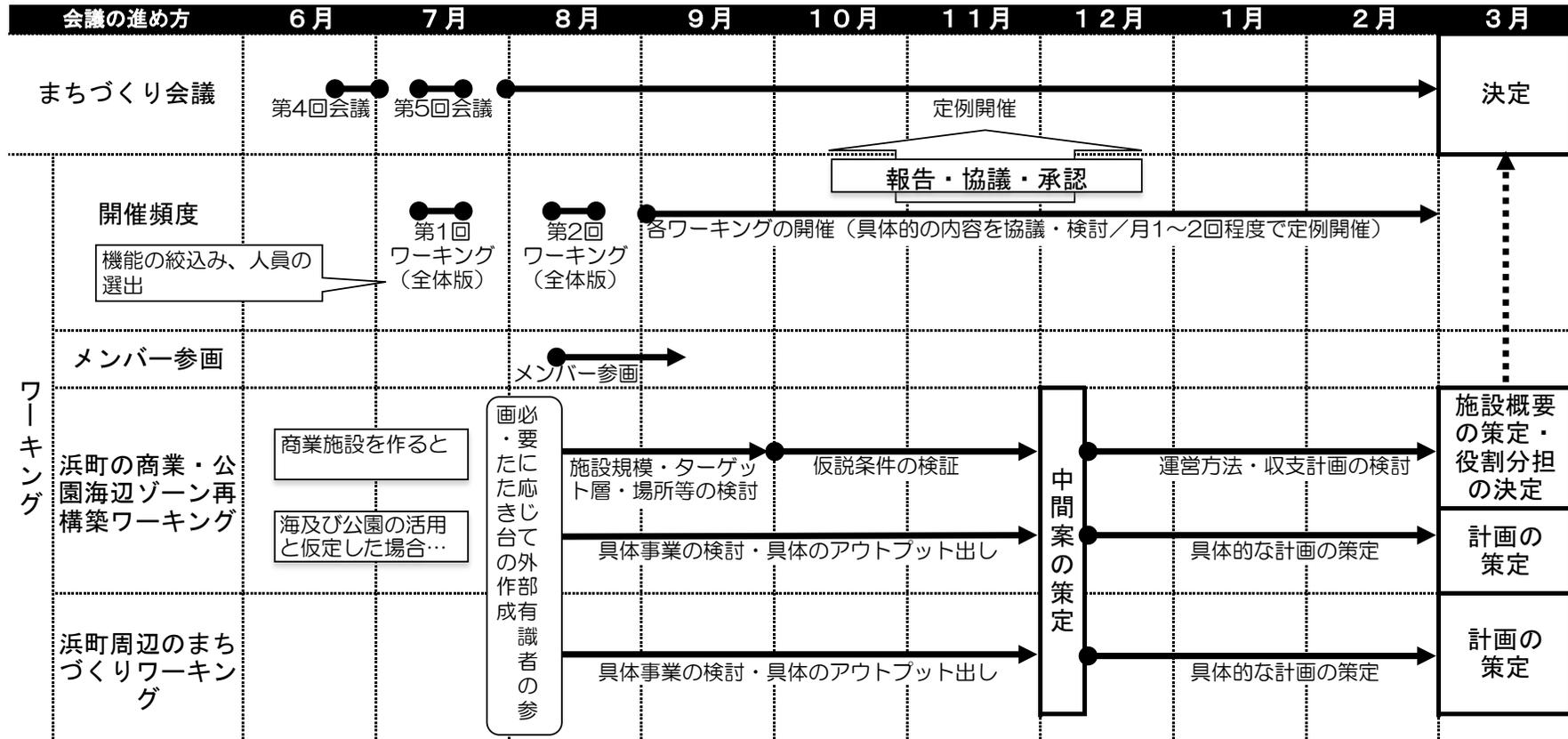
『地域資源を活用し、人が集い行き交う、賑わいのある場所づくり』

<共通認識事項>

- ①北前船が行き交う城下町・宮津の栄華を現代に伝える豊かな町並み、また受け継がれる貴重な伝統、コミュニティを活かし、暮らす人々、集う人々にも魅力的な場所にする。
- ②山海の食材を活かした商業の活性化を図り、地域経済の循環を生み出す場所にする。
- ③海路と陸路の結節点という地理的条件を活かし、丹後地域の中核都市としての機能を再構築し、さらには日本海側観光の要衝としての機能をもつ場所にする。

平成26年度の協議等のスケジュール（見込み）

■平成26年度の目標：施設概要、計画策定の決定



平成26年度 宮津まちづくり会議 事業内容について

1 事業目的 (※合意済)

民間事業者、地域関係者、行政が協働して「経済が発展する活力のあるまち」を実現していくことにより、地域の活性化と産業の振興に寄与することを目的とする。

2 事業内容 (※合意済)

①会議の開催

当面取り組む内容として「浜町及び浜町周辺の賑わいづくり」をリード事業に設定し、民間視点でのまちづくりに向けた企画・立案の実施、まちづくり事業の担い手の育成・組織化など、必要な具体事業や方向性を定める。

②ワーキングの開催

浜町及び浜町周辺の賑わいづくりについて、実践的な協議、検証、検討し、具体的な事業実施計画を策定、及び事業を実施していくための者などの役割分担を決定する。
(最終決定は会議体)

3 事業を円滑に実施する上で必要な項目について

(1) 会議を円滑に実施する上での必要な項目

①先進地視察及び講演会の開催

■目的

- ・住民と共にまちづくりを行っていくリーダー、またワーキングリーダーの役割を持つ委員のスキルをアップさせるため。

■内容

- ・先進事例・失敗事例への視察
- ・外部有識者による全国の中心市街地活性化に関する講演会の開催

(2) ワーキングを円滑に実施する上での必要な項目

①調査事業及び実証実験の実施

■目的

- ・具体的な議論を進めていくための必要なデータ収集、分析、企画立案等を行うため。
- ・伊根航路、バスの運行により、新たな来訪者が期待できる浜町において、実験的に賑わいを創出し、今後の賑わい施設の指標とするため。

■内容

- ・基礎的データ収集、マーケティング調査等、及び議論に必要な企画立案、具体的な施設概要計画の策定
- ・浜町の賑わいの「見せる化」として、定期的に物産・飲食関連のブースを設置し、実験的に賑わいを創出する。

②外部有識者・専門家の派遣

■目的

- ・実働部隊を担っていく実践的なワーキングにするためには、内部だけではなく、外部の専門的な視野を入れながら、建設的な議論を行う必要があるため。

■内容

- ・外部からのコーディネーター（外部有識者・専門家）の派遣

4 地域リーダーの参画・人材育成について

■目的

- ・まちづくり事業を成功させるためには、「住民主体」で行われることがポイントであり、「まちぐるみ」での取組が必要であり、「住民主体」のまちづくりを進めるためには、幅広いネットワークを持つ「民間」の地域リーダーが総合的に牽引する体制を構築する必要があるため。

■内容

- ・浜町の商業活性化事業の業務を担う情熱のある地域リーダーの募集、雇用

■業務内容（案）

- ・委員やワーキングメンバーと共に活動しながら、具体的な計画の策定、そして実働部隊として戦略的に事業を展開する。
- ・若手企業家の支援や後継者の育成、商店街の意識改革等のための仕組み及び組織づくりを積極的に行う。